



海響館リニューアル その裏側



8月1日に海響館がリニューアルオープンして、はや1カ月。すでに海響館を訪れた方も多いのではないのでしょうか。今回、海響館展示スタッフの加藤さんにお話を伺いました。

閉館中の作業で大変だったのは、アシカの展示繁殖施設造り。海響館と業者で何度も打ち合わせ、時間をかけて工夫を凝らしたとのこと。岩の形や海岸に打ち寄せる波の再現、アシカの安全対策など、細部までこだわりが詰まっています。

もう1つは、館内水槽のレイアウト変更です。「サンゴ礁」水槽では魚や砂、水をすべて出し、展示内容を一新。加藤さんは「魚は工事があることを知らないですから」と生き物へのストレスを極力減らすために段取りよく、丁寧に作業したそうです。スタッフの皆さんの頑張りに感服です。

リニューアル後の水槽内は、青い海の中に入り込んだよう！ 皆さん、パワーアップした海響館に、ぜひ行ってみてください！



下関市立大学
学生広報スタッフ

※写真2・3・4 提供：市立しものせき水族館



取材の様子



波打際



擬岩



完成した「サンゴ礁」水槽



KATSUTANI KEIKO

勝谷 恵子 隊員 (かつたに けいこ)

東日本大震災をきっかけに、支援活動へとキャリアシフトし、地元・下関へのUターンを決意。ITと五感を生かした「顔が見える」地域支援に取り組む。令和7年4月1日着任。

地元・下関から、
未来の地域づくりへ。

東京でさまざまな仕事をする中で、東日本大震災の被災地支援に取り組むようになり、土地を愛する人たちとの多くの出会いを経験しました。こうしたきっかけから「地元で自分の経験を生かしたい」と考え、25年ぶりに下関へ帰郷し、晴れて地域おこし協力隊になりました。

現在は市内全域を活動エリアとしたデジタル版隊員として、子ども向けプログラミング教室の支援やITツールを活用した米作りなどに取り組んでいます。

AI・ロボットなどの最先端技術で持続可能な農林業、人手不足の解消、空き家の利活用といった地域課題の解決、そして未発掘の地域の価値を再発見する活動に取り組んでいます。



下関市地域おこし協力隊員は
9人です(8月13日現在)